

令和2年9月1日

健康管理委員の皆様へ

常務理事 久木野 正一

(担当) 本部業務部・健康管理部

千代田健診センター

健康管理事業推進委員会

データヘルス計画

概況レポート (第9号)

「新型コロナウイルスの主な影響」 ・ 秋の野球大会中止

皆様、「コロナに負けずに」頑張りましょう。

I. トピックス

1. 「メンタル系疾患は、男性 40～50 歳代に多い」

健保連は、「被保険者のメンタル系疾患の動向に関するレポート」を公表

(6月29日)

1280 組合の被保険者 1,533 万人のレセプトを基に調査。

対象は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想型障害」、「気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)」、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」。

有病者数の割合は、

「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想型障害」は、0.44%

(男性 0.44%、女性 0.45%)

「気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)」は、1.99% (男性 2.04%、女性 1.89%)

「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」は、1.72%

(男性 1.63%、女性 1.92%)

月別の傾向は、3月が最大、6月、10月、12月が増加傾向。

3月の「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想型障害」の有病者数は、

男性は、40～49歳が最大、次が50～59歳、30～39歳の順で、40～59歳で6割。

女性は、40～49歳が最大、次が30～39歳、20～29歳の順で、30～49歳で6割。

※詳細は、別紙 図1を参照。

金属けんぽは、メンタルヘルス関係事業として、「電話・Web相談」と「ストレスチェック支援」を実施。

詳細は、「東京金属事業健康保険組合」ホームページをご確認ください。

2. 政府は、「2020年版高齢社会白書（2019年度高齢化の状況及び高齢化社会対策の実施状況、2020年度高齢社会対策）」を、閣議決定（7月31日）

（高齢化の現状と将来像）

2019年10月1日現在、

総人口	11	1億2,617万人	
65歳以上		3,589万人（男性1,560万人、女性2,029万人）	28.4%
（65～74歳以下）		1,740万人（男性831万人、女性908万人）	13.8%
（75歳以上）		1,849万人（男性729万人、女性1,120万人）	14.7%

将来推計人口は減少し、

2029年 1億2,000万人以下

2053年 1億人以下

2065年 8,808万人

65歳以上の人口は、

2042年までは増加して、3,935万人がピーク、その後減少

高齢化率（65歳以上の人口の割合）は、

増加して2065年に38.4%、2.6人に1人が65歳以上になる推計

※詳細は、別紙 図2を参照

平均寿命（0歳の平均余命）は、

2018年 男性81.25歳、女性87.32歳

2065年 男性84.95歳、女性91.35歳の見込

（就業状況）

2009年～2019年の推移

60～64歳 13.3%増

65～69歳 12.2%増

70～74歳 10.4%増

75歳以上 2.0%増

※詳細は、別紙 図3を参照

(健康)

健康寿命は、

2016年 男性 72.14歳 女性 74.79歳

2010年からの伸びは、男性 1.72歳 女性 1.17歳

※詳細は、別紙 図4を参照

運動習慣（2018年）は、

65～74歳 男性 41.8% 女性 36.0%

75歳以上 男性 44.4% 女性 37.1%

男女とも、20～64歳よりも高い水準

(介護)

介護保険の要介護、要支援の認定を受けた者は、

2017年度末 628.2万人（2008年度末の175.9万人増）、65歳以上の18.0%

65～74歳 要支援 1.3% 要介護 2.9%

75歳以上 要支援 8.6% 要介護 23.3%

(経済的な暮らし向き)

「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮している」 20.1%

「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮している」 54.0%

2016年調査では、合計で64.6%、心配なく暮しているが増加

(収入)

99.1%が、何らかの収入がある

夫婦の収入合計年額は、

120～240万円未満 30.9%

240～360万円未満 25.8%

収入の種類は、

公的年金 87.3%

仕事による収入 41.0%

(預貯金の取り崩し)

「ほとんどない、全くない」 51.6%

「時々ある」 34.6%

「よくある」 13.5%

(支出)

過去1年間の大きな支出項目は、

食費	59.4%
光熱水道費	33.1%
保健・医療関係費	33.1%
交通費・自動車維持費	25.7%

(経済的な不安)

今後の生活で経済的な不安について

「不安と思っていることはない」 34.2%で最大

不安がある場合の内容は、

「医療・介護費用がかかりすぎる」	30.8%
「自力で生活できなくなり、転居・有料老人ホームの入居費用」	26.0%
「収入や貯蓄が少なく、生活費が不足する」	25.8%

(生きがい)

どの程度の生きがい、喜びや楽しみを感じているかについては、

「十分感じている」 37.2%

「多少感じている」 42.5%

(就業の状況)

「収入のある仕事をしている」 37.3%

2016年調査との比較は、全年齢階級で増加。

※詳細は、別紙 図5を参照

(就業形態)

「パート・アルバイト」 34.3%

「自営業・個人事業主・フリーランス」が多かった

(仕事をしている理由)

「収入が欲しい」 45.4%

「体によく、老化を防ぐ」 23.5%

「仕事が面白い、知識・能力を生かせる」 21.9%

(仕事していない者の就労意識)

「今後も仕事に就くつもりはない」	87.0%
その理由は、	
「体力的に困難」	31.8%
「健康上の理由」	24.5%
「趣味や社会活動に頑張りたい」 ¹	9.9%
「介護や家事」 ¹	7.4%

(何歳まで仕事をしたいか)

「65歳位」	25.6%
「70歳位」	21.7%
「働けるうちはいつまでも」	20.6%

3. コロナの金属けんぽへの財政的な影響（現段階）

過去のリーマンショック等の不景気の影響は、健保組合の財政状況に深刻な影響を及ぼしています。

現在のコロナの影響は、以下の通り。

(一般勘定の保険料収入（3月分～7月分）)

令和元年度と比較して、9,424万円の増

- ・被保険者数が、7月末で1,425人増
- ・標準報酬月額総計が、23億800万円増
- ・標準賞与額総計が、11億9,300万円減

※詳細は、別紙「1. 月額保険料調定額の前年度との比較(月別)」、

「2. 一般勘定関係の標準報酬総額等の前年度との比較」を参照

(医療給付費（3月分～6月分）)

令和元年度と比較して、5億8100万円の減

コロナによる受診抑制の効果

- ・医科外来者数は、62,445人減（20.8%減）
- ・医科入院者数は、696人減（18.5%減）

※詳細は、別紙「月別医療給付費推移（前年度との比較）」、

「医科外来者数」、「医科入院者数」を参照

(結論)

現段階では、深刻な影響は受けていない。

- ・算定基礎届による9月分の標準報酬月額の状況

- ・年末の賞与額の状況
- ・今後の医療給付費の動向等を注視する必要がある

II. 事業の概況等

1. 算定基礎届の受付とその処理

コロナの影響で、「6月の算定基礎届説明会・事務担当者講習会」を中止。
算定基礎届の処理は、若干の未提出事業所への対応以外は、順調に進行中。
定時決定は、9月分の保険料計算（10月告知分）から反映。

2. 特定保健指導の方法の追加改善

事業所・自宅のパソコンと組合保健スタッフのパソコンを活用した特定保健指導を開始。

- ・3密を回避できる。
- ・日程調整が容易等のメリットがあります。

詳細は、健康管理部コラボヘルス課（電話 03-3866-2869）まで。

3. 特定保健指導の実施状況（4月～7月）

緊急事態宣言期間中の4月～5月は、訪問指導を中止。

特定保健指導は、面談時のマスクの着用、3密を避けて実施しています。

（組合保健指導スタッフが事業所に出向き実施した特定保健指導）

- ・事業所数 22事業所
- ・指導者数 142人

（千代田健診センターの健診直後に実施した特定保健指導）

- ・指導者数 246人

4. 千代田健診センター健診実施状況（4月～7月）

施設内の消毒や換気、マスクの着用の義務化、また3密を避けるため、受診者の人数を制限して、感染拡大防止措置を取りながら健診を実施。

「再予約の実施」にご協力いただきありがとうございました。

○健診実施数（4月9日から6月30日まで休止）

半日人間ドック 488人

生活習慣病健診 179人

一般健診 12人

- 女性を限定とする健診「レディースタイム」を毎月第2、第3木曜日の午後に実施
10人利用
- 胃カメラ検査を火・水・金曜日の午前（1日8人限り）に実施
93人利用

5. Webウォークラリー

「潮干狩り」、「野球大会」の中止を考慮し、令和2年度の特例として、**賞品額を倍額**にして実施。

参加申込方法：組合ホームページ「第5回 Webウォークラリー」特設サイトより
お申込みください。

マップコース：中山道91万歩コース

実施期間：9月1日～11月30日

参加登録期限：9月30日

賞品：91万歩以上歩かれた方はQUOカード2,000円を贈呈
(昨年度1,000円)

50万歩以上91万歩未満歩かれた方にQUOカード1,000円を贈呈
(昨年度500円)

結果報告：終了後、参加者ランキング等を発表